


黒田官兵衛の史伝、 100年の時を経て復刊

[福岡市文学館選書] 創刊  第1回配本

福岡市文学館選書とは.....

福岡ゆかりの文学で、絶版や未刊行により、現在読むことが難しい作品について、福岡市文学館が選び、発行します。

福岡市文学館選書

黒田如水

1

福本日南

福岡市
文学館
海鳥社

福岡市文学館選書 1

「黒田如水」

福本日南 著

四六判並製本330頁 カバー装 定価1500円(税抜)

1911(明治44)年、東亜堂書房発行

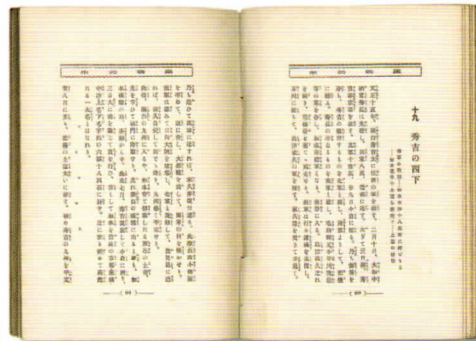
『黒田如水』の新装復刊です。

解説:石瀧豊美(歴史研究家)

発行:福岡市文学館 発売:海鳥社



◆カバー



◆原本本文(100%で再現)

注文票 — 福岡市文学館選書 1 「黒田如水」

全国書店にて販売中

書店にない場合は、FAXで092-771-2546(海鳥社)へご注文ください。

ご住所・ お届け先	〒
	電話 番号
お名前	ご注文 冊数
	冊

お問い合わせ **海鳥社**

電話:092-771-0132 FAX:092-771-2546
〒810-0072 福岡県福岡市中央区長浜3-1-16

E-mail: eigyo@kaichosha-f.co.jp
http://kaichosha-f.co.jp

十九 秀吉の西下

南軍の戦闘……如水中津十八萬石に封ぜらる
 ……如水肥後の土寇を鎮壓す……土豪の解散

天正十五年、關白秀吉大に征西の軍を發す。二月十日、大和中
 納言秀長は先發し、其軍八萬、豊前に達す。次ぎて三月朔、秀
 吉亦京都を發す。其軍十餘萬、廿九日小倉に抵る。乃ち部署を
 分ち、秀吉の親督するものを北軍と稱し、兩筑よりして、肥後
 に嚮ふ。秀長の率ゐるものを南軍と號し、毛利輝元、小早川隆景
 等の軍を合し、如水亦監軍となり、南豊に入る。島津義久之れ
 を聞き、豊後府を棄て、西走せり。南軍は行々諸城を克復し、
 耳川に抵りて、島津家久の軍を壓す。家久營を焚きて亦退く。

◆原本を再現した本書は、経年の汚れなどを取りました。(この組み見本は、原書の約90%です)

福岡市文学館選書 1 「黒田如水」

作品介绍.....

『黒田如水』

明治44年5月、東亜堂書房より発行された本書は、「黒田如水」の史伝であり、金子堅太郎著『黒田如水伝』と並び、その後、多くの「如水」小説の種本となった。

豊臣秀吉とナポレオンを尊敬していたという日南の本書「叙言」には「是に於て乎太閤の小模型に拵み、此に黒田如水伝を作る」とあり、その執筆意図が窺える。内容は黒田家発祥から如水の生涯までが丁寧綴られ、更に巻末の付録には年譜のほか「黒田氏と福岡」など史論家だった日南独自の論究が収録されている。

*本書は東亜堂書房発行の原本からの新装復刊です。

黒本日南..... ふうもと・にちなん

安政4年(1857)～大正10年(1921)

福岡藩士・福本泰風の長男として生まれる。幼名は巴。後に誠と改名。藩校修猷館に学び、明治7年に上京。明治9年、司法省法学校に学ぶも「賄征伐」により原敬、陸羯南らと処罰を受け退校。明治22年、新聞「日本」を創刊。同年にはフィリピンに渡航し、この頃から「日南」と号す。明治38年「九州日報」の第4代社長兼主筆、明治41年には憲政本党所属で衆議院議員となり政治家として活躍。代表作は『元禄快挙録』(明治42年)、『直江山城守』(明治43年)、『英雄論』(明治44年)、『太閤とカイゼル』(大正2年)など多数。